

浦島伝説

令和3年 4月20日

第2号



靴をそろえる 心をそろえる



新学期が始まって2週間が過ぎようとしています。左下の写真は4月15日（木）の靴置き場と自転車置き場の様子です。自転車はラインにそってきちんと並べられていて、ヘルメットもきちんと荷台にくくりつけられています。靴箱には、かかとの折れた靴は1足も見当たりませんでした。この様子を見て、「はきものをそろえる」（長野県 円福寺住職 藤本幸邦）という詩を思い出しました。ゆっくりと声に出して読んでみてください。

自転車をラインにそろえて並べることや、靴のかかとをきちんとそろえておくことは、行動としては、とても小さな事かもしれませんが、しなくても変わらないのでは、と思う人もいるでしょう。でも、心と行動はつながっています。このような小さなことを当たり前のようにできるようになることが、とても大切なのです。朝、自転車をラインにそろえて並べること、靴をそろえて脱ぐことで、自分の心が整います。それを一人一人が毎日続ければ、学級、学校全体の心も整って、気持ちのよいさわやかな一日を始めることができます。



ノーヘルは危険 注意1秒 けが一生

4月12日（月）、令和3年度第1回目の全校朝礼で、ヘルメットをきちんとかぶることの大切さについて話しました。なぜこのことを「いの一番」に選んで話をしたのか。健康は大事です。勉強も大事です。部活動もあいさつも掃除も・・・。大事なことはたくさんありますが、みなさんの「命」以上に大事なことはありません。

全校朝礼で話したように、前任校での交通事故では、その生徒はきちんと交通ルールを守っていたにもかかわらず、車の運転者の赤信号の見落としで事故にあってしまいました。ヘルメットを、きちんとあごひもを締めてかぶっていたため、事故の衝撃で10メートル近く投げ出されたときもヘルメットが脱げることなく頭部を保護し、奇跡的に全治1週間程度のけがですみました。

私も、中学生の時に自転車で勢いよく転倒したことがあります。車道と歩道の境の段差の所で、自転車の前輪を取られて転び、頭から歩道に投げ出されました。ヘルメットは真っ二つに割れましたが、頭に傷はなく、手のひらと膝をすりむいて血が出た程度のけがですみました。痛みをこらえて立ち上がり、真っ二つに割れたヘルメットを見て、自分に何が起こったかが分かり、急に怖くなって体が震えだしたのを覚えています。もし、ヘルメットをかぶっていなければ、死んでいたかもしれません。助かっていたとしても、深刻な後遺症（こういしょう）が残るような事故でした。

人間は、自分は大丈夫とってしまう習性がありますが、ノーヘルは本当に危険です。以前、「注意1秒 けが一生」という交通標語がありました。ヘルメットをかぶるわずかな時間・手間を惜しんで、一生苦しまなければならない、取り返しのつかないことにならないようにしてほしいと心から願っています。